［釈文］

打身骨抜　即席御りやう治　火出し仕候

外家医前銭

瓢磐亭　江戸前　鯰大家破焼

なまづ　大かばやき

御披露

一、御町中様万歳楽々御軒別ニゆらせられ仰天地獄ニ奉存候、しづまって私義先達中江戸前鯰大家破焼自身大道ざき仕候所、ゆり出し焼失より家蔵身代迄御ゆりあげ動揺向被仰付候段、大変時こく古今に有がたく被損候、猶又今磐御愁ひの為、市中なんぎめし

此末どうせう汁、打身骨抜即席御りやうぢ取合、格別風儀宜く世直し仕差上可申候間、民の竈の御賑々しく御威光駕之程、一偏に奉願上候、以上

市地うなんきめし　御救御一人前

五合宛

此末どうせう汁　ことし一ぱい

難渋見聞

卯十月二日夜よりゆり出し

見勢ひらき焼失

麁かゆ差上申候

神座鹿島町

かな目屋石蔵